

新 古代史解体新書

主に弥生時代から平安時代に至る時代を一つのくくりとして、その時々には繰り広げられる古代の歴史を、遺跡・遺物などの具体的事項についてあらためて理解を深めるとともに、村から始まり国が成立するまでの人々の生活・文化の変遷や交易・交流、身分と権力・政治体制、葬送儀礼と宗教などなど、各回ごとに多様な視点からテーマを設定し、畿内の状況を中心に、全国各地や大陸・半島との関連も視野に入れながら古代史の全体像を3次元的に把握してみようという企画です。

未だ謎多き古代史について、各回の内容の「深まりとつながり」を意識するとともに、各講師の研究者としての見解の相違点にも注目しながら、大きな歴史の流れを「なるほど・納得」しながら楽しく学びましょう。

また、各回質問の時間を設け、講演内容だけでなく皆さんがお持ちの古代史の「なぜ」という疑問にも講師から回答していただきます。ご期待ください。

● 講 師

第5回、第6回 京都府立山城郷土資料館 館 長
福島 孝行 氏

第7回、第8回 (公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査課 課長補佐
筒井 崇史 氏

第9回 京都府教育庁指導部文化財保護課 課長補佐
古川 匠 氏

● 募集定員 各回 50名程度 (申込受付随時)

● 参加費 各回 300円

● 日程等 各月 1回 水曜日 13:30~15:45

第5回 2023年 11月22日(水) 「新しい年代観は古墳時代研究に何をもたらすのか」
—好太王碑と初期須恵器—

第6回 2023年 12月20日(水) 「古墳の階層と副葬品」
—大型円墳の位置付けを問い直す—

第7回 2024年 1月24日(水) 「群集墓の展開とその意義」
—古墳時代社会の変化を読み解く—

第8回 2024年 2月21日(水) 「前方後円墳の終焉と古代寺院の出現」
—仏教伝来は古墳造営に終止符を打ったのか—

第9回 2024年 3月13日(水) 「古代宮都、京都へ」
—7・8世紀の東アジア情勢と京都府南部—

● 申込先 やまきん・京都府立山城勤労者福祉会館(窓口又は電話・FAX)

TEL 0774-82-3639 FAX 0774-82-3762